

学びの自覚につながる振り返る活動の充実 ～子供たちに学びの実感を～

「何をどのように学んだのか」「何ができるようになったのか」など、1単位時間の授業や単元の終わりで、自身の考えの広がり深まり、新たな気づきを整理することは、学習したことを深く理解することにつながります。

自分の学びを振り返ることで、次への意欲や新たな問い・課題が生まれます。

本時の中で

- 学習の見通しを持つ
- 課題を共有する
- 課題解決していく

振り返る活動

- まとめ…課題に対する答え
- 個に戻る活動…教科の特質、ねらいに応じて
- 振り返り…学びに対する振り返り

充実

児童生徒にとって
学びの自覚

教師にとって
ねらいの達成
の見取り

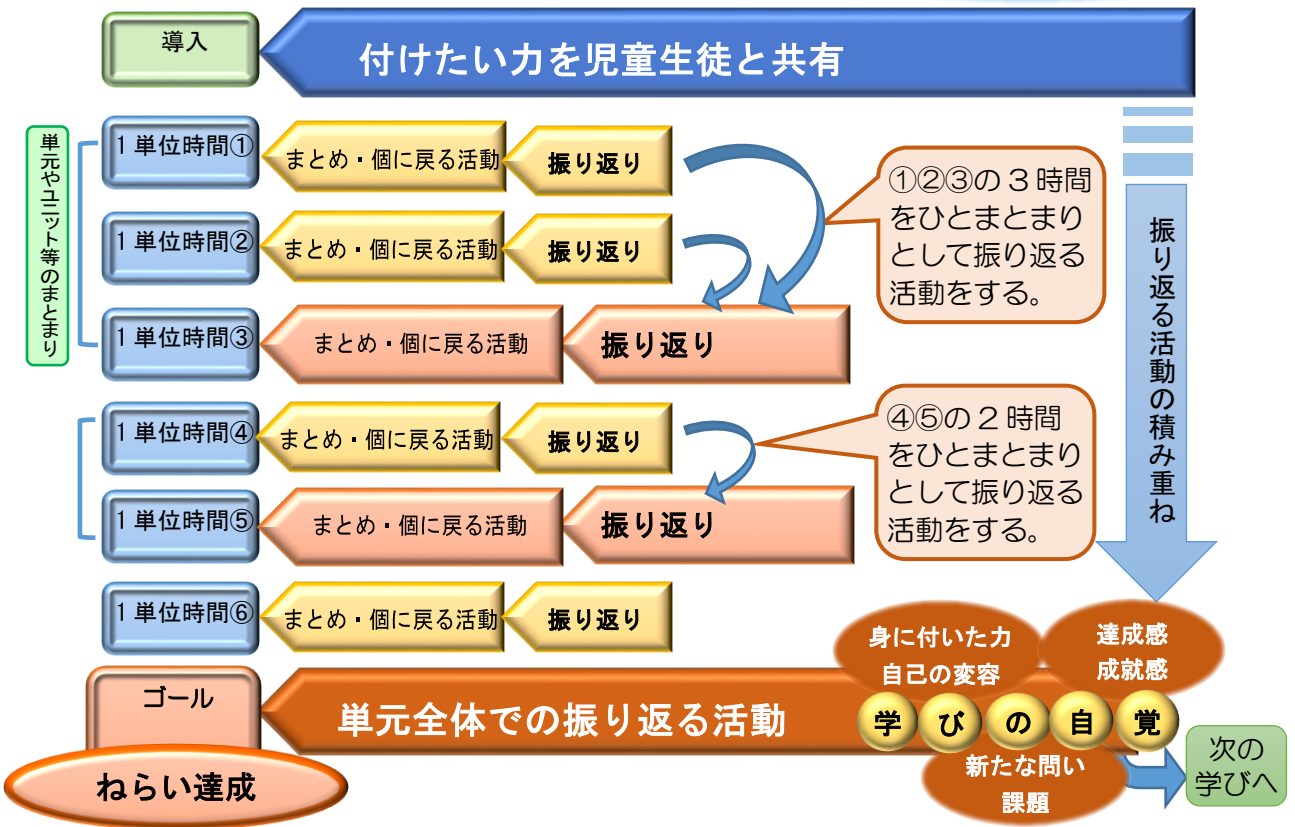


振り返る活動は、児童生徒が自分の伸びを最も実感する場面です。自らの変容や身に付けた資質・能力を自覚できるように工夫していきましょう

単元（題材）のまとまりの中で

柔軟で創意工夫のある
振り返る活動

例



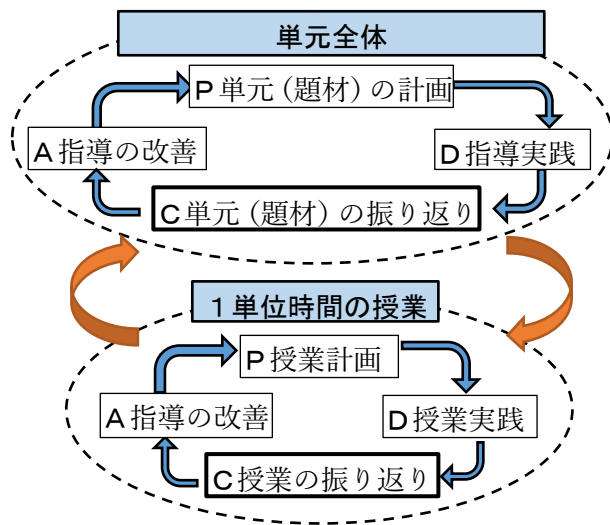
本時の学びを自覚する 振り返る活動を設定する

- ◆課題に対する「まとめ」を行う
 - ・課題と整合させる。
 - ・児童生徒の言葉を生かしてまとめる。
- ◆個に戻り、学びを深める活動を行ったり、習熟を図ったりする
 - ・学びを確認したり活用したりする活動を行う。
 - ・評価の観点に応じて適用問題を適切に行う。
 - ・B規準に達しない児童生徒に対する手立てを講じる。
- ◆学びに対する「振り返り」を行う
 - ・「何をどのように学んだのか」「何ができるようになったのか」など、自己の変容を自覚したり、学び方を振り返ったりしながら、考えを整理させる。



振り返りの内容を吟味し、 指導改善に生かす

- ◆児童生徒の振り返りから、身に付けさせた力を付けることができたか見取る
 - ・ねらいが達成できたのか、学びを深めていたのかを見取る。
 - ・1単位時間の授業ごとに、教師も指導の振り返りを積み重ね、単元（題材）全体を見渡し、計画を見直していく。



ねらいに迫る 「振り返り」にする

- ・「振り返り」の際には視点や書き出しを示す。

例 「どのように考えたのがよかったか」
 「知っていることをどう使ったか」
 「何が分かったか」
 「何ができるようになったか」
 「この学びでどう変わったか」
 「頑張ったこと」
 「友達のよかったところ」 など



- ・「振り返り」につながる板書となるよう、めあてや思考過程が見えるようにする。
- ・ねらいに迫る振り返りを取り上げる、振り返りを伝え合うなどの活動を通して、学習内容の確認と次への意欲や問いを共有する。

「まとめ」「振り返り」の内容を 具体的に持つ

- ・1時間の授業を考える時は、「本時で付けたい力は何か」「その力を付けた時のまとめ、振り返りにはどのようなことが書かれていけばよいのか」「そのためには課題や問い、指導方法をどのようにすればよいか」という流れで授業設計する。
- ・児童生徒に「学びの実感」がある授業となるよう、「振り返り」の時間を十分保障する。



ノートなどを児童生徒に返却する時には、児童生徒の次の学びにつなげるためにどのようにフィードバックするか考えましょう。

価値付ける時は、ねらいに沿って具体的に！

